



掌中芭蕉翁發句集

全



掌中芭蕉翁發句集

春之部

人を見ぬ春也かゝる結る所梅
蓬萊に波もや仔細結初便
うさかふな溺るるれも浦乃春
大津絵の管はけし免る何佛
先日の直上痛く縁喰もぐりぬ
二日あもぬりるせしな花の春

葺蕪いりふを賣う川新菜は

後別

梅口の菜まると大抵宿乃とろく汁
喜もやぐを一歳とりのふ月を毒
山里を新菜返しむ先乃花
細代長船の息よ何みく
梅の本小ぶ枝やまりきや梅の花
むめこ番小のつと思はせよと海は

わびち境小柱ひく

みん小やくの法しもさー梅の花
うらひまは笠落しと枝榎うな
堂や柳乃うー後敷のま
うらひすや餅小糞もは振の先
傘り押わけんを侍柳う如
それ物よはらぬ柳乃志をく
八九百をくふふ如やあきう如

猫乃怒すむ時園のおは後月
衆心まつりんく為上御田乃奥
蛇喰ふ空笑えおそるし維子乃存
ま時へ物作りて奥の院より堂の
わらうとさ致よそ務小然と信されて
父母乃志きり小然し維子乃存
むらりわく申孫孫子也維子の存
永交日と晴り多しぬひとるう形

栖玄孫辨小又彦小あり

重荷よりうへ小やましくふ時うぬ
けろま小流ふ落しそむく燕

規子の贊

あゝ魚や思は目紙の法乃細
枯芝やまゝさう多務あ乃一二寸
新大佛の記小又彦にあり
丈六の陽空言ししる孫らえ

糸もんまや敷き合ま珠敷のま
まもや蜂の巣はとま根乃洩
菜畠小花見顔ま味ま老成
古流や蛙まひ込む 有ま音
蝙蝠も出まようま世乃ま老
花咲く七日霧見顔ぬま老
老乃より山ま目乃乃物乃ま
これ老ま鏡ま上野ま漢ま

葛城山の禁とる

燈見ま〜花小明ゆ〜 神乃顔
花の陰うまひ小似ま旅寝
支考うま御老首達と還
ひま老推まよ老小又畚一具
淋〜まや老の何まりのわすあま
老は〜ま老ま乃うま月老
四方より花吹入ま老乃ら

古き君の庭ありしごとく

さへく 秋草ありひかた 揺る那

妻の衣をさくく 小のそ 仕着たり

木乃り 空を計も 繪もはらへり

山 諸島を何や 申うー せうれ 兼

夢 柳乃 流年 志を傳く 汐下は

系 庭を人 小儀 あり

茶 此戸も 往のら 於世を 舞乃 兼

山ふ 夾や 空の 流の 陪 炉の 白ふ 時

ほ 悠く 空の 山 吹ら 於る 濑の 春

大 あり 柳の 時

夢 臥く 宿の 法 ありや 夢の ともな

奥 村の 遠 奥に 細き あり

り 春や 鳥 啼 魚の 目を あり

記 り 幸 約 文 鑑 あり

申 くる 所や ありの 箇 あり 追 付 あり

夏之節

夏来りもきくむとの葉の二葉は

旅川の吟

ひさしに流るる子負ぬ衣をえ

はくはく流るる横とふやあはの上

りくあすまのくは夏のむく尾尾

送後少々

はくはく大作多紙渡は月夜

時鳥たうや又尺紙何屋見も

以广の漁人の矢先を啼や子親

形次郎少々

所を構ふるむむむむけよむむむむ

奈少少少

灌佛結目りけしれり小麻乃ふり

うの巻やうり身柳の乃ひま

鎌倉と生さく出きんさ川 終

うゑいもや柿の子茹ゑ老瓜帰
落柿金ころも

柿の老小びりり瓜あふ料理の間
筐とまきと青糸ふらうらに茄子汁
けしとれの雪吹落せ 大井川
りりふりりうれぬりのや瀬田の橋
さみとまきをめつめとふりり上川
栗とりふ文字の西の木とまきと幼方降きと

使りのまきの春菜落乃一生杖也
桓ふもひ木を羽ひなるとも

世乃人結見付ぬ花や朝乃栗
降乃とも柿抄款日と兼夜笠
清澁や流ふちり込むまき糸
世瓜落よと為かしく小田の如鳥り
白河の翠越々

風流結きりめや栗方の田うへ唄

早苗や序のりやむしあのみ
田一投うへまをち序新の如
駿河路やそふまはも葉の白ひ
眉掃或面類あしつゝあのみ
わらひ心や敷をゆるの別産
記り本物又鑑ふあり
うづつり角ぬりけこ吹广の石
月とあつてもよめあつてす戸の夏

的 石 秋 泊

蜻蛉やうらふき夢或復れ月
葉はる鐘あそく
夏草や花いそよのともうゆえ乃跡
紅蓮屋の記憶葉ふあり
せんまのむ推の本もたり 夏木立
佛頂禪師の産をあらたて
啄木も産をあらたて 夏木も

おさふらぬものぞ失へ侍る事ぞらむて

夕顔支入りてまゝとんふるゝ交時

夕顔や種をいろく乃まゝく登り

名鶴啼き人乃心とまや依を泊り

夕宵の紙續猿蓑ふあり

夏の夜や崩まゝく時一即中一物

正成像

おさふらぬものぞ失へ侍る事ぞらむて

おさふらぬものぞ失へ侍る事ぞらむて

蓮の香は目ぞかゝるは面乃鼻

甘浮二句

きりくもや面乃如施り合歡者の花

夕晴やけりくも源む波をを

十八樓の記笈日記よあり

おさふらぬものぞ失へ侍る事ぞらむて

朝露ありとこれぞ瓜乃出

夕西と物も味り瓜乃系
 瓜の皮むきて食ふ後や蓮巻
 瓜の汁や煮て食ふと心憚の聲
 中と死 帝一ききとんは怪れ声
 雲の客いふ川為ぬく月能山
 暑糸の目を海に入らぬ川
 六月や峯ふ雪墨河~~~~山
 とか月や綢とめれとも塩~~~~ら

秋之部

ちの秋やききみあふく秋故郷の秋
 文月や六月も常乃秋少と秋
 多たささや秋をゆくは秋のさめ
 銀河の序風信又選ふあり
 荒海や佐波小横とふたす川
 閑筭の悦日~~~~
 めさるや置るは鏡おら門乃垣

嵐雲の画小契のそとせれと

物うねる下もみきさくわらじあり
あゝあぢあはさぬ粧のらねり

旅館の吟

初と川と小物女も痛う萩と月
ひらねくや程あやうやとまへ
醒るや捨めやくほまふかみ
乃のきたむらけまる小唄れり

びう〜字挟又版さく角力やうり

海人うぶを小帳ふま〜ほいとさ
まねび〜のき紙つ〜あよまぢ屋

夏田の神社此宝物小実盛う甲あらる

むゆんやまかあらのりかま〜く〜

いあつまや園の〜めい又後のき

ま〜く〜もあ〜か〜もの〜さ〜う〜

葉の戸を初れや穂薺ふ〜ら〜

桐の木よりうつくしき啼きける塚乃内
響の目もいづれも言ぬきあき駒
交の名乃ありともあつては千雀
苔樹く井は又幸乃あや見うや
木を流とるてあき

柳やいのら城か〜あきあき〜
藁麦もまう〜あき〜あき〜あき〜
三日月や地をふるる多歌藁麦島

ありと何處もあき〜あき〜あき〜あき〜

兼得死の風俗又選ふあ

月を〜指をふ城もらあき〜
柴の戸に月やあき〜あき〜あき〜
名月や門ふあ〜あき〜あき〜あき〜
名月や池とあき〜あき〜あき〜あき〜
あき〜あき〜あき〜あき〜あき〜あき〜
あき〜あき〜あき〜あき〜あき〜あき〜

名月結露をくもてく後をくけ

月見紙和澤文探ふあり

采々向友松赤い乃月のお

三井寺の門きくくもやまの月

名月やあつらもくも 瀬田乃橋

十六歌をりつのもり園のけいん

のほのや二十七歌も三々乃月

松茸やあつぬ木のあつぬ

いひ中啼 屍起りあつ 萩乃麻

あつくと日とほまはくも萩の風

あつとく大根のト 萩の愛

人の縁せらあつ巴と流年なまれ

あつと啓らむーあつのう勢

あつとあつらあつらあつらあつら

あつとあつらあつらあつらあつら

あつとあつらあつらあつらあつら

きくくのきくやあきあき古に佛と
菊の花はくくやあきあき乃間
白くくや目ふきくくえはきくく

十三歌

檣柳はあきあきあきあきあきあき
猿のあきあきあきあきあきあき
枯枝はあきあきあきあきあきあき
は道やあきあきあきあきあきあき

松風のあきあきあきあきあきあき

小名木はあきあきあきあきあき

秋はあきあきあきあきあきあき
の秋はあきあきあきあきあきあき

瓢之流

山素堂

一瓢重黛山

自笑称箕山

莫慣首陽餓

這中飯顆山

教公の垣藜小ねはあきあきあきあきあき

惠子うつふ種ありも何して我ふ
 初と何のひさきあり是れ多きみに
 つ草と老入はる器よせむとすれえ
 大ふしとありふあはるはるえり
 作りそと草とむむとすれか
 みるふれありあひいそくま魔の
 いそく身羅入し支そのあるとまを以
 りあとのこく強ある深疑やうてあらぬ

隠士素翁ふくろくこれと好む
 そのまをむむとす其のふれや
 むとれくむむとす山やふ中れも
 飯顆山と草杜のまある地ありと李白
 むとれくむむとす李白
 うとれく我負をきくくせむや
 あつむむとすれきちり乃 密き
 なるはる時一壺も千金せり

黛山もろろ〜とむとふり

まのどろの瓢きろろ或我ふら那

芭蕉拙書出

冬之部

初〜とれ猿も小篋とほ〜夢あり

記行幸の文鑑より

旅人の中家名らるる人 ちのり

宿りて名残あり〜まぬ時ふり

ホ〜〜に句ひや付〜らるる

こか〜〜小岩吹とらぬ移るる

振賣の石ありれちり急いふ儀

ぬき子万と荒とぬれは落葉か

病中此吟

旅よ病〜憂を枯野とけとらぬ

冬枯れ破よと物とほちのり

星崎乃園と見よとや 帰らとら

誓ひし所を付くまきしりし備
 林あ月の末沼津の沢塚お女姑家ふ令也
 初出多神も旅寐の日数り那
 冬こもり又よりそむ改はしり
 金屏能登内古はよ冬あかり
 住法うぬ旅能あふ旅や垂巨燧
 風来さふく
 秋恙つり新更出しり旅寐は

麦生くくたかられ家や 島村
 鞠壘り小坊自主あや大根引
 葱をく洗ひまきそふはむこま
 塩鯛の歯く氏も急し魚の居
 葛の糸の表んやりりふ物乃露
 糸仙や白さ隙子乃とらうつり
 雪菊や粉糠のかほ白装端
 いらりし死書や何れひ能本笠

土川 雲や掛か、とく、松檜の上
 初由炎や、亦、仙の雲の、より、心、近
 こも、かく、も、な、く、と、や、雲、乃、枯、尾、花
 采、雲、年、雲、結、袋、や、あ、け、路、巾
 馬、と、と、人、御、歌、雲、結、所、く、ま、う、家
 熱田 迂宮
 磨、雲、以、鏡、も、清、く、一、雲、乃、と、れ
 日、枝、上、雲、う、け、わ、る、雲、御、結、檜

い、さ、ゆ、く、く、と、雲、乃、く、く、と、御、歌、あ、ま、さ、く、
 箱、根、越、を、人、も、あ、く、く、と、と、朝、乃、雲
 生、き、あ、く、く、と、御、歌、う、く、く、と、御、歌、な、ま、あ、く、
 去、嘯、紅、塚、も、免、を、御、歌、御、歌、御、歌、
 人、く、家、御、歌、御、歌、御、歌、御、歌、御、歌、
 煤、掃、の、祝、小、文、彦、以、有
 寸、と、れ、や、雲、川、 宿、乃、雲、軒
 有、明、も、海、日、千、を、く、御、歌、御、歌

何故に師走乃市より島
 煉掃を己の柳津歌大工の如
 盗人小多ふと我もわり逢の昔
 奥多結あ糸を知らぬ年忘ま
 旅とくくえくやくき世の煉掃ひ
 分別の庭をくたけりやくの暮

抄
 其の...

